令和６年度　第１回 総合教育会議　会議録

１．招集日時　　令和７年１月１６日（木）　　午後３時００分
２．招集場所　　西郷村文化センター　西郷村文化センター第２研修室
３．出 席 者

村長	髙橋　廣志
教育長	秋山　充司
教育長職務代理者	勝又　千賀子
教育委員	佐藤　敏巳
教育委員	村田　清
教育委員	鈴木　忍

４．説明のために出席した者

学校教育課長	緑川　浩
課長補佐	高内　慎介
専門主査兼施設係長	佐々木　達也
庶務係長	角田　淳史
学校給食センター所長	関根　由美
学校給食係長	尾形　浩
生涯学習課長	黒須　賢博
課長補佐	塩谷　慎介

（パシフィックコンサルタンツ株式会社　吉田、後藤）

本委員会の書記

庶務係長	角田　淳史

５．開　会　　午後３時００分

６．議　題
（１）学校規模適正化について
・西郷村立小中学校の望ましい教育環境づくり計画（案）について
・西郷村議会文教厚生常任委員会所管事務調査報告書について
・西郷村議会文教厚生常任委員会村内所管事務調査報告書について
（２）西郷村 PTA 連絡協議会からの要望について
（３）給食費の値上げについて
（４）その他

７．その他
（１）西郷村の望ましい教育環境のあり方に関する方針策定業務の進捗状況について
報告者：パシフィックコンサルタンツ株式会社

学校教育課長　緑川
定刻となりましたので、順序に従いまして進めさせていただきます。

また、開会に先立ちまして、本日、西郷村の望ましい教育環境のあり方に関する方針の策定業務を担当しておりますパシフィックコンサルタンツ株式会社から、説明のために２名本日出席いただいていますので、ご了承いただければと思います。
自己紹介のほうよろしくお願いいたします。

パシフィックコンサルタンツ㈱　吉田
パシフィックコンサルタンツの吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

パシフィックコンサルタンツ㈱　後藤
同じくパシフィックコンサルタンツの後藤と申します。お願いいたします。

学校教育課長　緑川
後ほどよろしくお願いいたします。
それでは、ただいまより令和６年度西郷村総合教育会議を開催いたします。
初めに、村長からご挨拶のほうよろしくお願いいたします。

村長（あいさつ）

学校教育課長　緑川
ありがとうございました。
続きまして、教育長からご挨拶お願いいたします。

教育長（あいさつ）

学校教育課長　緑川
ありがとうございました。
それでは、議題のほうに入らせていただきます。要綱第５条により、議長は村長となっておりますので、進行につきましては、村長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事

村長
それでは、暫時議長を務めさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願いします。
それでは、議題（１）の学校規模適正化について、事務局より説明をお願いします。

教育長
議題（１）「西郷村立小中学校の望ましい教育環境づくり計画（案）について」を説明

村長

ありがとうございます。

今ほど教育長からお話がありましたけれども、この件について委員の方からざっくばらんな意見を聞きたいと思いますので、お願いしたいと思います。

どうぞ。

勝又委員

西郷村における小中学校の適正化について、長年川谷小中学校の件を中心に地域住民と話し合いを重ねてきました。ここに来てようやく方向性が見えてきたことに安心し、子どもたちのためになることだと喜んでいます。

ただ、他自治体で見られるような「スピード重視」の進め方には懸念があり、地域性や住民の意見を大切にしながら、丁寧に進めていくべきだと思います。

教育長から説明があった「10 年から 20 年」という長期的な計画も理解できます。

また、学校の老朽化が進む中で、方向性が定まったことは大きな前進だと思いました。

村長

ありがとうございました。

佐藤委員

学校はこれまで地域の中心的な存在であり、川谷や羽太もそうであると思います。

大きな一つの村の学びの拠点という形へと移行していくには、地域とどう結び付くかを踏まえて慎重に対応しないと、地域によっては取り残される可能性もあり、村の発展や地域の活力も学校の存続に関りがあるので慎重に進めるべきと感じました。

村長

村田委員、お願いします。

村田委員

勝又先生、佐藤先生のおっしゃったことに私も同感です。

スピード重視の進め方については、視察先と西郷村では人口減少の状況や地域性が異なり、丁寧に慎重に進める事が必要かなと感じています。

川谷の独自文化・風土を尊重し、学校づくりだけでなく地域づくり、人づくりと一体的に捉えるべきであり、建物だけの問題ではなく、将来を担う子どもたちをどう育成するかを基本としなければならないと思います。

また、「自立・創造・共生」の理念について、自立、共生、創造の順の方が良いのではないでしょうか。皆で議論しても良いと思いました。

さらに、ウェル・ビーイングと言われている考え方について、どういう風に教育の中に生かしていくか。この考え方を取り入れていき、それぞれの学校を拠り所として幸せな人生を送れるよう、幸せ感を享受できるような教育環境であって欲しいなと思っております。その他、部活動の地域移行などの新たな課題についても丁寧に議論すべきだと思いました。

村長

ありがとうございました。

それでは、鈴木委員。

鈴木委員

私も皆さんと同じ考えで、児童数が少なくなっているのは良く分かります。羽太小学校では、地域や保護者とのつながりが深いので、しっかりとした説明をしないと理解してもらえないと思います。理解を得た上で進めていった方が良いと思いました。

教育長

よりよい教育を目指すにあたり、私たちの視点だけでなく、子どもたち・保護者・教職員の当事者目線で学校へのニーズを把握する必要があると思います。子どもたちがどのような学校で学びたいか、保護者がどんな学校に通わせたいか、教師が働きやすいと感じる学校はどういうものかそうした声を丁寧に聞き取りながら学校づくりを進めていくべきで、第三者の専門的な視点も参考にしながら、地元の方々の気持ちを尊重し、1 年間かけて丁寧に取り組んでいきたいと思っております。

村長

首長というのは、この学校問題を避けますが、私は 10 年前に学校教育課にいたので、川谷の問題は十分知っています。私が辞めたころには複式の問題が小中一貫校となってあれと思っていました。

慎重で丁寧な対応も理解できますが、学校老朽化等を考えるとある程度スピード感を要すると思っています。

佐藤委員のご意見にもありましたが、白河に通う子どもが 100 人近くいることから、西郷村は人口流入もあるため、そんなに悲観することはないと思います。

「自立、共生、創造」の基本理念について、順序を検討されたようですが、村田委員のご意見もそうかなと思いました。

さらに、羽太グリーンタウン建設後に児童数が一時的に増え、その後減少してしましましたが、川谷や羽太にも団地造成の要望があります。地域の思いを感じており、ワークショップやると、それぞれにいろいろな意見出てくるかと思います。

しかしながら、子どもの将来、子どもにとってどういうことがいいのかを本当に考える時期であり、川谷小が令和 9 年に複式になることを踏まえ、受験を考えるとそれで良いのかと思います。

村長

次に進めていいですか。次、お願いします。

学校教育課長　緑川

議題（１）「西郷村議会文教厚生常任委員会所管事務調査報告書について」
「西郷村議会文教厚生常任委員会村内所管事務調査報告書について」
を説明

学校教育課専門主査兼施設係長　佐々木

「学校施設の複合化・多機能化」を説明

村長

それでは、ここまで何かご意見がありましたらばお願いいたします。

多機能化について、文科省の補助は大丈夫なの。言っていることは良いですが。

学校教育課専門主査兼施設係長　佐々木

令和４年度に制度改正になっていまして、対象事業費はありませんが、補助率が３分の１から２分の１にかさ上げになっています。

佐藤委員

中学校１つにしたときに、こういう多機能はいいよね。

村長

はい、多機能にするとね。面白いですよね。

どうぞ。

村田委員

調査報告書の中に認定こども園のことも書いてありましたけれども、子育て支援を横断的に、一体的に、福祉と教育を含めて検討を加えていった方が良いと思います。

佐藤委員

何年間にも亘って話してきましたが、白河市に通う幼児が 100 名前後もいる現状を踏まえて村立幼稚園の今後のあり方を考えていくと、広い敷地や隣接するキッズランドのような施設があることを活用し、0～3 歳児向けの保育施設として認定こども園化することは幾らでもできます。

障がい児などへ早期対応も含めた幼児支援センターのような乳幼児教育も含めた拠点ができてくると、幼保小中の一貫性という部分に先陣を切ってつながっていくのではないかと思います。そういう風になってくれば、白河に行っている子どもたちが戻ってくる期待ができます。

ただ、認定こども園ができた時、私立幼稚園の園児減少の救済策となりましたが、入園が少なくなっている園では、幼稚園部門が機能せず、事実上の保育園となっている状況も見られます。

幼保小中一貫という事を考えた時、認定こども園の導入を視野に入れるのであれば、村立幼稚園のあり方というものを具体化していく事も大切だと感じます。

村田委員

私の経験で、障害児施設や養護施設に行ったとき荒れ果てていた。なぜかというと、年長児が年少児を支配している。だから、思いやりとか優しさというものを教えないと、混乱した学校になってしまうおそれもある。本当に優しさある子を幼保小中一貫で教育しなければという視点で見ていかないとと感じます。

佐藤委員

参考までに、那須塩原市が小学校の低学年の先生が近くの認定こども園とか保育園とタッグを組んで、先生同士が月１か月２ぐらいで連絡取り合いながら積極的に動いています。

幼保小連携というのはいかに大事なのかというようなことを、自治体では盛んにやり始めていると感じています。

勝又委員

ここでは関係ないかもしれませんが、キッズランドにしごうは、当初は放射線から子どもを守る目的で設立されましたが、十数年経過しその役割が変わりつつあります。村立幼稚園が隣接していることも踏まえ、今後の運用につい考えた時、単なる遊び場としてだけでなく、子どもの発達支援の拠点として活用するなど、新たな役割を持たせることも一つの選択肢ではないかと感じています。

佐藤委員

0～2 歳からの入園であれば、そのまま進級するので村立幼稚園の人数も安定してきます。認定こども園と関係なしに、0～2 歳児を保育園、3 歳以上を幼稚園としている施設もあります。

ただ、幼稚園を希望する保護者も一定数おり、そういった人たちを大事にしていく。そのため、幼稚園の下に 0～2 歳児向け施設を設置する、あるいは認定こども園として一体化することで、村立幼稚園の安定につながるのではないかと思います。

村長

一時幼稚園も少なくなって、どうするかという問題もありました。ここへ来て人数が復活してきました。

村田委員

合計特殊出生率は一時 1.2 代から 1.4 代へと回復しているので、村長の子ども支援政策の成果を分析する必要があると思います。そして、子どもの数を見ながら進めていく必要がると思います。

また、発達障害のある子どもが増加しているというデータもあり、配慮が必要な子どもたちへの対応も考えなければと思います。

自閉症の方は、専門的に関わるとよくなっていくので、専門性を高めていくという方向性も必要だと思います。

佐藤委員

これからは公立主体だけでなく、民間との連携も視野に入れなければ、厳しい状況に対応できなくなると思います。例えば個人的な発想ですが、川谷小中学校の建物を廃止するのではなく、通信制の学校を誘致するなど、民間活用の方法を検討すべきです。白河市では、大信の廃校を活用して民間の小学校、須賀川の保育園の理事長が独自のシステムで設立した例もあります。今後は、民間と共存という形を考えていかなければと思います。

村長

そうですね。人の確保が難しくなってくる時代で、保育園でも幼稚園でも民間の力を借りないと難しいところですね。

佐藤委員

保育士不足と言われていますが、魅力のある保育園や幼稚園には保育士が集まっています。教育や保育の内容を充実させることで、人材も集まってくると思います。

村長

HP_それでは、時間ないものですから、（２）の西郷村ＰＴＡ連絡協議会からの要望ということで説明お願いします。

学校教育課長　緑川

議題（２）「西郷村 PTA 連絡協議会からの要望について」を説明

村長

それでは、（３）の給食費の値上げについてお願いします。

学校給食センター所長　関根

議題（３）「給食費の値上げについて」を説明

村長

これは予算の確保ですから、最終的にはこちらで。なるほど、値上げね。もう何でも上がっているから、もうしょうがない。

それでは、（４）のその他に移りたいと思います。

委員の方々から何かありましたらばお願いしたいと思います。

学校教育課長　緑川

村長ありがとうございました。

それでは、５のその他に移らせていただきます。

（１）の西郷村の望ましい教育環境の在り方に関する方針策定業務の進捗状況につきまして、ご説明のほうお願いいたします。

パシフィックコンサルタンツ　吉田

学校教育課庶務係長　角田

その他「西郷村の望ましい教育環境の在り方に関する方針策定業務の進捗状況について」説明

学校教育課長　緑川

ありがとうございました。

今のご質問、ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

〔発言する者なし〕

学校教育課長　緑川

進捗状況を随時ご報告しながら、教育委員会の中でもご説明していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、ホームページや広報紙を使いながら、村民の方に周知をしながら進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

ご質問ございますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

学校教育課長　緑川

以上をもちまして、令和６年度西郷村総合教育会議を閉会といたします。

ありがとうございました。

終了　　午後４時４７分